

平成 25 年 8 月 9 日
運輸安全委員会

旅客船第三あんえい号旅客負傷事故及び旅客船第三十八あんえい号
旅客負傷事故に係る勧告に基づき講じた措置について（完了報告）

平成 24 年 6 月 24 日及び 26 日に沖縄県竹富町仲間港沖で発生した旅客船第三あんえい号旅客負傷事故及び旅客船第三十八あんえい号旅客負傷事故について、原因関係者である有限会社安栄観光から、当委員会が行った勧告に基づき講じた措置について報告を受けましたのでお知らせします。（別添）

これらの事故については、平成 25 年 3 月 29 日に事故調査報告書の公表とともに同社に対して勧告を行っていたところです。（参考）

なお、同社からの完了報告は、勧告の内容を反映したものとなっています。



別添

平成25年7月23日

運輸安全委員会

委員長 後藤昇弘 殿

有限会社安栄観光

代表取締役

旅客船第三あんえい号旅客負傷事故及び旅客船第三十八あんえい号
旅客負傷事故に係る勧告に基づき講じた措置の完了報告について

1 勧告の内容

旅客の輸送の安全確保を図るため、次の方策の実施について検討を行い、講じた措置の実施の徹底を図ること。

(1) 事故防止策

① 比較的船体動揺の小さい後方座席への旅客の誘導等

比較的船体動揺の小さい後方座席へ旅客を誘導すること。

また、船体動揺が大きいことが予想される場合は、負傷の危険性が高い前部客室前方座席への着席を制限できるように旅客の乗船を制限すること。

② シートベルトの適切な着用等に係る旅客への情報提供及びシートベルトの適切な着用の確保

a 旅客への適切な情報提供

旅客に対し、シートベルトの適切な着用の重要性及び負傷事故発生の危険性並びにシートベルトの適切な着用方法について、航空機における安全のしおりのような紙面によるもの、又は各座席の背面等への掲示によるものなどの旅客の視覚に明確に訴えられる方法による船内における情報提供を行うこと。

また、乗船券販売の際、旅客に対し、天候悪化による欠航の可能性などの不利益情報や当日の気象及び海象予報並びにその後に入手した気象及び海象情報に基づき、予想される船体動揺などの不安全情報について具体的な説明を行うなどの適切な情報提供を行うとともに、シートベルトの適切な着用の重要性及び負傷事故発生の危険性並びにシートベルトの適切な着用方法についての説明を行うこと。

b 船内アナウンスの実施及び船内巡視によるシートベルトの適切な着用の確保

前記②aを踏まえ、船内アナウンスによるシートベルトの適切な着用に係る説明を行うこと。

また、旅客の聴覚に頼る説明及び案内の方法のみでは、旅客がこれらの説明及び案内に意識を向けていない場合、聞き逃す虞があることも考えられることから、船内巡視により、シートベルトの適切な着用を確認すること。

③ 波浪に対する速力調整等

座席における上下加速度を考慮し、船体動揺を軽減するための減速を行うこと、及び波浪に対する見張りを励行すること。

④ 海象情報の共有

運航管理側が運航状況を的確に把握することは、安全運航上重要なことであり、運航中の各船に対して適切な指示等が行えるよう、また、旅客に対して入手した海象情報に係る情報提供が適時適切に行えるよう、本件航路などの特に海象情報の共有の必要性が高い航路については、各船船長から海象情報を報告させる要領を定めること。

なお、定めた海象情報の報告要領は、荒天時安全運航マニュアルに追記すること。

⑤ シートベルトの整備及び整頓

シートベルトの適切な着用が可能となるようにシートベルトの点検、整備を行うこと。特に、シートベルトの締付け調節が困難となっているものについては、新品へ速やかに交換すること。

また、シートベルトについては、旅客が容易に気付くように旅客の乗船前に整頓すること。

⑥ クッションシートなどの衝撃吸収材設置

低反発弾性軟質ポリウレタンフォームなどの適切な材質のクッションシートを選択し、船体動揺が大きい座席へ設置すること。

(2) 荒天時安全運航マニュアル等に係る安全教育の実施

前記(1)①～④の実施状況を踏まえ、荒天時安全運航マニュアルの更なる内容の充実を図るとともに、同マニュアル及び安全管理規程（運航基準等を含む）の乗組員に対する安全教育を継続的に行うこと。

(3) コミュニケーションの改善等

① コミュニケーションの改善及びより安全な運航体制の構築

運航管理側及び乗組員側の双方が互いの意思疎通を図り、相互の関係を改善し、また、貴社全体が会社理念及び経営理念を再認識し、社員一人ひとりがチームワークを意識して緊密なコミュニケーションを図るよう努め、より安全な運航体制を構築すること。

② 乗組員に負担の少ない運航ダイヤの設定

乗組員がゆとりを持った運航に当たることができるよう、運航ダイヤを設定すること。

2 勧告に基づき講じた措置

以下の各事項につき対策を講じ、今後とも継続して実施することとした。

(1) 事故防止策

① 比較的船体動揺の小さい後方座席への旅客の誘導等

(対策) 船内放送・巡視により、高齢者、身障者及び幼児は後方座席へ案内するとともに、船体動揺が大きいことが予想される場合、前方座席（前3列）の使用を制限する。（別紙1参照）

高齢者等用優先席を現在の6席から12席に増やし、後方への案内がしやすいようにする。

② シートベルトの適切な着用等に係る旅客への情報提供及びシートベルトの適切な着用の確保

a 旅客への適切な情報提供

(対策) 乗船券売場・気象及び海象に基づき予想される船体動揺や欠航便発生等

に関する運航の見通し情報を旅客に提供する。
気象及び海象による船内での注意事項を掲示する。
また、シートベルトの適切な着用の重要性や着用方法等について説明する。

船内・船内放送及び巡視によりシートベルトの適切な着用について説明し、座席背面へ「高速船乗船中の注意・ご協力依頼事項」の掲示をする。(別紙2参照)

自社のホームページにおいて、注意事項(シートベルトの適切な着用)の記載を実施する。

b 船内アナウンスの実施及び船内巡視によるシートベルトの適切な着用の確保
船内放送によるシートベルトの適切な着用についての説明を行い、船内巡視を1便につき少なくとも2~3回実施することとし、船内巡視記録簿を見直してチェック項目を増やす。

③ 波浪に対する速力調整等

(対策) 荒天時安全運航マニュアルへ各航路毎の荒天時の目安を追加し、同マニュアルに従って、船体動揺を軽減するための減速を行うとともに、波浪に対する見張りを励行する。

④ 海象情報の共有

(対策) 運航基準第11条(通常連絡)及び第12条(連絡方法)等により情報の共有を図る。情報の伝達方法は、荒天時安全運航マニュアルに記載する。

荒天時の目安となる波浪を認めた場合は、その都度(または入港後)本社船舶部へ、携帯電話により連絡することを、荒天時安全運航マニュアルに記載する。

⑤ シートベルトの整備及び整頓

(対策) 発航前検査簿にシートベルトの整理及び整頓の点検項目を追加して常に点検・整備を実施し、旅客が乗船する前に、シートベルトを着用しやすいように座席上に配置する。

荒天時安全運航マニュアル「荒天時における旅客の安全対策要領」にシートベルト配置についての項目を追加した。

シートベルトを点検し、膠着していたものはシリコンスプレー(衣類のチャック等の滑りを良くする効果がある)によりシートベルトの締付け調整を可能とし膠着状態を改善する。

⑥ クッションシートなどの衝撃吸収材設置

(対策) クッションシート(テンピュールシートクッションS)を本年4月末日までに事故の多い前方から3列目までの座席へ導入する。(別紙3参照)

さらに、5列目までの座席への導入を前向きに検討する。

(2) 荒天時安全運航マニュアル等に係る安全教育の実施

(対策) 前記1. ①~④の実施状況を踏まえ、荒天時安全運航マニュアルの更なる内容の充実を図り、毎月の安全講習会と朝のミーティングにおいて安全管理規程及び荒天時安全運航マニュアルの遵守の指導、教育を継続的に実施する。

(3) コミュニケーションの改善等

① コミュニケーションの改善及びより安全な運航体制の構築

(対策) 月1回「職場の改善委員会」を実施して要望・指摘・問題点・課題等を話し合う。

メンバーは、事務所(運航、営業、貨物)船長、甲板員、整備の各部署の代表者とする。トップダウンのみではなく、現場の声を会社に提案し双方で問題点などの改善を実施することにより信頼関係をつくることことができる。

② 乗組員に負担の少ない運航ダイヤの設定

(対策) 平成25年4月以降、各航路のダイヤについて、着時間の記載を削除し、使用船や天候により所要時間に変動がある旨記載し、旅客への周知を図った。今後、船舶運航日誌により、実際の運航時間を調査し運航ダイヤの作成時の資料とするなど、引き続き、運航ダイヤの見直しの必要性について継続的に検討する。



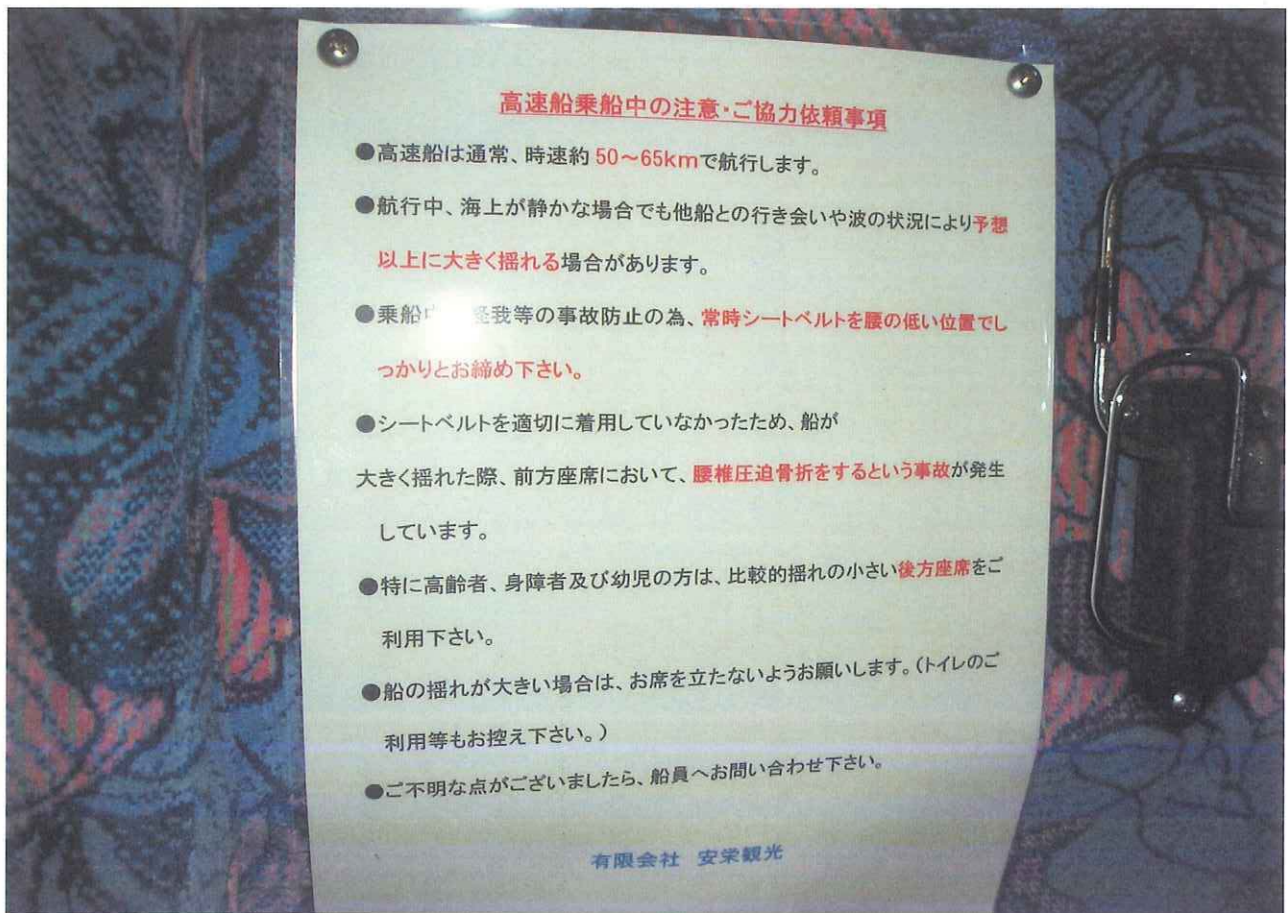
前方立入制限区域(前方より)



前方立入制限区域(後方より)



高速船乗船中の注意・ご協力依頼事項掲示



高速船乗船中の注意・ご協力依頼事項掲示



テンピュールシート設置状況(左舷)



テンピュールシート設置状況(右舷)

運委参第614号
平成25年3月29日

有限会社安栄観光
代表取締役 殿

運輸安全委員会
委員長 後藤 昇弘

旅客船第三あんえい号旅客負傷事故及び旅客船第三十八あんえい号
旅客負傷事故に係る勧告について

平成24年6月24日及び26日、沖縄県竹富町仲間港南方及び南南西方沖において、旅客船の旅客負傷事故が2件発生した。

1件目の事故は、第三あんえい号が、仲間港南方沖において、波高約2～2.5mの南からの連続した波を左舷船首方から受けて速力約15～22knで南南西進中、第三あんえい号において、旅客を比較的船体動揺の小さい後方座席へ誘導せず、また、貴社において、旅客がシートベルトを適切に着用できる措置を講じていなかったため、船体が上下に動揺した際、前部客室前方にシートベルトを着用せずに着席していた旅客が、座席から身体が浮いて臀部から座席に落下した衝撃で腰椎を圧迫骨折したことにより発生したものと考えられる。

また、2件目の事故は、第三十八あんえい号が、仲間港南南西方沖において、波高約1.5mの南南東方からの連続した波を左舷船首に受けて速力約15～20knで南南西進中、第三十八あんえい号において、旅客を比較的船体動揺の小さい後方座席へ誘導せず、また、貴社において、旅客がシートベルトを適切に着用できる措置を講じていなかったため、船首が波高約2.0mの波頂に乗って波間に落下した際、旅客が、座席から身体が浮いて臀部から座席に落下した衝撃で腰椎を圧迫骨折したことにより発生したものと考えられる。

これら2件の事故において、負傷した旅客に対し、比較的船体動揺の小さい後方座席への誘導及び負傷した旅客がシートベルトを適切に着用できる措置を講じていなかったのは、貴社が、乗組員等に対して荒天時安全運航マニュアルの遵守を徹底していなかったことによるものと考えられる。

このことから、当委員会は、本事故調査の結果を踏まえ、旅客の輸送の安全を確

保するため、貴社に対し、運輸安全委員会設置法第27条第1項の規定に基づき、下記のとおり勧告する。

また、同条第2項の規定に基づき、講じた措置についての報告を求める。

記

貴社は、旅客の輸送の安全確保を図るため、次の方策の実施について検討を行い、講じた措置の実施の徹底を図ること。

(1) 事故防止策

① 比較的船体動揺の小さい後方座席への旅客の誘導等

比較的船体動揺の小さい後方座席へ旅客を誘導すること。

また、船体動揺が大きいことが予想される場合は、負傷の危険性が高い前部客室前方座席への着席を制限できるように旅客の乗船を制限すること。

② シートベルトの適切な着用等に係る旅客への情報提供及びシートベルトの適切な着用の確保

a 旅客への適切な情報提供

旅客に対し、シートベルトの適切な着用の重要性及び負傷事故発生の危険性並びにシートベルトの適切な着用方法について、航空機における安全のしおりのような紙面によるもの、又は各座席の背面等への掲示によるものなどの旅客の視覚に明確に訴えられる方法による船内における情報提供を行うこと。

また、乗船券販売の際、旅客に対し、天候悪化による欠航の可能性などの不利益情報や当日の気象及び海象予報並びにその後に入手した気象及び海象情報に基づき、予想される船体動揺などの不安全情報について具体的な説明を行うなどの適切な情報提供を行うとともに、シートベルトの適切な着用の重要性及び負傷事故発生の危険性並びにシートベルトの適切な着用方法についての説明を行うこと。

b 船内アナウンスの実施及び船内巡視によるシートベルトの適切な着用の確保

前記② a を踏まえ、船内アナウンスによるシートベルトの適切な着用に係る説明を行うこと。

また、旅客の聴覚に頼る説明及び案内の方法のみでは、旅客がこれらの説明及び案内に意識を向けていない場合、聞き逃す虞があることも考えられることから、船内巡視により、シートベルトの適切な着用を確認するこ

と。

③ 波浪に対する速力調整等

座席における上下加速度を考慮し、船体動揺を軽減するための減速を行うこと、及び波浪に対する見張りを励行すること。

④ 海象情報の共有

運航管理側が運航状況を的確に把握することは、安全運航上重要なことであり、運航中の各船に対して適切な指示等が行えるよう、また、旅客に対して入手した海象情報に係る情報提供が適時適切に行えるよう、本件航路などの特に海象情報の共有の必要性が高い航路については、各船船長から海象情報を報告させる要領を定めること。

なお、定めた海象情報の報告要領は、荒天時安全運航マニュアルに追記すること。

⑤ シートベルトの整備及び整頓

シートベルトの適切な着用が可能となるようにシートベルトの点検、整備を行うこと。特に、シートベルトの締付け調節が困難となっているものについては、新品へ速やかに交換すること。

また、シートベルトについては、旅客が容易に気付くように旅客の乗船前に整頓すること。

⑥ クッションシートなどの衝撃吸収材設置

低反発弾性軟質ポリウレタンフォームなどの適切な材質のクッションシートを選択し、船体動揺が大きい座席へ設置すること。

(2) 荒天時安全運航マニュアル等に係る安全教育の実施

前記(1)①~④の実施状況を踏まえ、荒天時安全運航マニュアルの更なる内容の充実を図るとともに、同マニュアル及び安全管理規程（運航基準等を含む）の乗組員に対する安全教育を継続的に行うこと。

(3) コミュニケーションの改善等

① コミュニケーションの改善及びより安全な運航体制の構築

運航管理側及び乗組員側の双方が互いの意思疎通を図り、相互の関係を改善し、また、貴社全体が会社理念及び経営理念を再認識し、社員一人ひとりがチームワークを意識して緊密なコミュニケーションを図るよう努め、より安全な運航体制を構築すること。

② 乗組員に負担の少ない運航ダイヤの設定

乗組員がゆとりを持った運航に当たることができるよう、運航ダイヤを設定すること。